

**学校法人聖和大学  
聖和大学短期大学部  
機関別評価結果**

**平成 20 年 3 月 19 日**

**財団法人短期大学基準協会**

## 聖和大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 聖和大学
理事長名	茂 純子
学長名	山村 慧
A L O	井頭 均
開設年月日	昭和 2 5 年 4 月 1 日
所在地	兵庫県西宮市岡田山 7 番 5 4 号

## 設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育科		150
	合計	150

## 専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

聖和大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 18 年 6 月 28 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学は、開学当初よりキリスト教布教活動を前提とし、「聖和」すなわち「聖なる和合」を建学の精神として明確に標榜するとともに、教育目的の前提としてきた。

この建学の精神はカリキュラム編成にも色濃く反映されており、教職員や学生は、建学の精神および教育目的を明確に自覚している。卒業生は幼児教育者、保育者、福祉施設従事者などとして、地域社会のみならず全国の就職先から高い評価を得ている。

教育方法および教育内容は、教育要覧およびシラバスに明確に記載されている。短期大学設置基準を上回る数の専任教員に加えて、聖和大学教育学部より教員の派遣を受け、教育実施環境は極めて良好と判断される。さらに夏期休暇中を利用して「プラスαプログラム」を提供し、卒業後保育現場で役立つと思われる知識や技能教育を展開している。この企画には多数の学生が参加し、卒業生に対するアンケート調査でも好評である。

教員の研究活動も活発であり、科学研究費補助金や私立大学等経常費補助金特別補助などを取得している。

図書館は併設大学と共用で充実が図られている。図書館分室には「理論と実践」の場としての演習・実習教育支援施設「おもちゃとえほんのへや」を設置して、学術図書とは別に絵本、紙芝居、雑誌などの教材図書を多数有している。この施設を利用する学生は、児童や保護者とともに玩具・絵本などを使って遊ぶことができ、特徴ある教育環境と評価することができる。

教育施設は阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたが、多額の資金を投入し、校舎面積も短期大学設置基準を大幅に上回る状況まで再建され、施設設備も十分な規模で整備されている。

学生支援体制には少人数指導を旨としてアドバイザー制を実施し、保健師、臨床心理士および精神科医を擁する学生相談室と連携して、問題解決に努力している。

大学運営に関しては、教授会および大学評議会をはじめ各種の委員会を設置し、教職員一体となった運営を図っている。事務組織についても規程および必要な施設設備

が整備され、規程に基づいて適正に事務処理が行われている。

## 2. 三つの意見

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育目標の「キリスト教精神に基づく豊かな人間性、専門性、実践力を兼ね備えた保育者の育成」を明確化し実践するために毎日行われている学校礼拝は、全教員が輪番制で司会（主催）し、また、教授会・各種委員会、研修会などは祈りをもって始めるなど、当該短期大学所属の教職員および学生が建学の精神や教育理念を常に確認し、誇りと自覚を新たにする場を設定している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員の中に多くの保育・教育現場経験者を含むことは、教育目的の達成の観点から望ましい教育の実施体制である。
- 図書館は、運営システムが整備され、保育科の授業や実習と密接に関連して教育活動を展開している。また、「おもちゃとえほんのへや」では幼児教育関連の絵本や玩具を多く備え、学生の勉学、地域の保育者の研修、育児支援などに大いに貢献している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 平成 17 年度、18 年度入学者のうち、退学者は僅か 1 名であり、学生の高い満足度の証左である。
- SEIWA サマーセミナーやホームカミングデーの実施、同窓会支部会や総会への理事長・学長の出席など、卒業生との接触が積極的に図られている。さらに就職先に教員・職員が出向いて意見聴取を行い、現場との信頼関係を形成している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生支援機構の奨学金のほかに、後援会が給付する奨学金制度と家庭会が貸与する奨学金制度を持ち、経済的困窮学生を支援している。

評価領域Ⅵ 研究

- 附属幼稚園、関連施設「聖和乳幼児保育センター」などがあり、教員の教育活動と研究が一体化されている。さらに、日本乳幼児教育学会は併設四年制大学と当該短期大学の教員が中心となって立ち上げた学会であり、開設当初より現在に至るまで、日本の幼児教育研究に寄与している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 昭和 43 年からの国立ハンセン病療養所での泊り込みの奉仕活動をはじめ、様々な社会的活動は当該短期大学の建学の精神に基づくもので、学生は教員の指導支援

の下に身をもってその精神を具現化し、地域社会に貢献している。

#### 評価領域Ⅸ 財務

- 平成7年1月に発生した阪神・淡路大地震で校舎などに甚大な損壊を被り、その復興に多額の費用を必要としたが、ここ数年来、法人全体が一丸となって経費の削減など財務体質の健全化に努め、成果をあげている。また、「資金運用に関する内規」に基づき、適切な資金運用を行っている。

### (2) 向上・充実のための課題

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスに学生の科目選択に必要な情報が必ずしもすべて網羅されていない場合があるので改善することが望ましい。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学部教員の聖和大学での兼担が多いように見受けられるが、専任教員はできるだけ短期大学の業務に時間を割き、教育や学生指導に当たったほうがよいと考えられる。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生に対する就職先からの評価については、個別の意見聴取にとどまらず、より定量的な評価を継続的に行うことが望ましい。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

- 教務委員会など重要な委員会の規程を速やかに制定することが望まれる。

#### 評価領域Ⅸ 財務

- 避難訓練を定期的実施することが望まれる。

### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

### 3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は、明治13年に設立された神戸女子神学校、明治21年に同じく神戸に設立されたランバス記念伝道女学校、明治28年設立の広島英和女学校保姆師範科が順次合同して発展してきた。昭和25年に聖和女子短期大学となり、昭和56年に聖和短期大学、さらに昭和63年に聖和大学短期大学部と名称変更を行い今日に至っている。この大学の歴史的背景が語る如く、当該短期大学の建学の精神は、キリスト教宣教師達によって作られた Christian Worker「キリストの働き人」の養成であり、「聖和」の語に「イエス・キリストのうちに、つながり合い、結び会う和合の源」すなわち聖なる和合を表現している。

教育の根幹がキリスト教にあることが、当領域をはじめとして教育内容・教育の実施体制などの領域に色濃く認められる。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の免許・資格のみならず、社会福祉主事任用資格、児童厚生二級指導員資格、認定ベビーシッター資格が取得できるような教育課程が編成されている。また、2年次の教育・保育実習による授業時数の不足を補うため同一科目を週2回開講し、学生の便宜を図っている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織に関して、短期大学設置基準を上回る教員数を配置しており、「教員人事に関わる規程」に基づき採用、昇格は適切に行われている。教員は建学の精神に基づく使命感を持って教育・研究活動に意欲的に取り組んでいる。

震災の被害を乗り越え、校舎や校庭が良好に整備されている。「聖和の森」と呼ばれる中庭が学生や教員によって維持され、緑豊かなキャンパスと歴史を感じさせる建造物やチャペル、学内の各所に飾られている絵画などが一体となり、当該短期大学の教育理念を具象化する教育的雰囲気醸し出していることは評価できる。

図書館をはじめ、施設は十分な規模を有している。大学と共用であるが、学生相互の学習や体験の広がりにも役立つように配慮されている。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

各科目の評価方法はそれぞれ妥当な方法が選択され、著しく合格者が少ない科目や著しく評価が偏った科目は少ない。アンケートによれば大多数の学生が教授陣に対して「満足」または「やや満足」と回答している。教員は学生の満足度に配慮しながら授業を実施し、授業の評価はシラバスに公開された方法で適正に実施されているものと判断できる。

退学者は平成 17 年度、18 年度入学者のうち 1 名と非常に少ない。また、学生のほとんどが希望する免許・資格を取得して卒業しており、編入学を希望する学生に対する指導も充分行われている。

卒業生のほとんどが専門就職を果たしている。幼児教育に長い伝統を持つ当該短期大学は専門就職先との間に信頼関係を築き、卒業生の評価および意見を聴取して就職指導に役立てている。編入学した学生の事後調査も充分実施されており、卒業生の社会的評価を積極的に収集する取組みが行われている。

卒業生を対象とするアンケート調査が実施され、その結果から卒業生や在学生を対象とした研修会が開催されるようになった。リカレントスクールや学内同窓会（ホームカミングデー）などの行事を設け、色々な機会を利用して卒業生と積極的に接触し、さらに理事長・学長が同窓会総会・支部会に出席するなどして卒業生の情報収集に努めている。

以上のように、教育目標の達成度および教育効果を確認しようとする取組みは充分実施されており、そのいずれについても高い評価が与えられるものと判断した。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

大学案内には教育理念などが明示され、合格者には文書による入学前指導が行われている。入学式後のオリエンテーションウィークに履修指導、学生生活指導などが実施され、5 月には、学生間および教職員との親睦を深めるためにフレッシュマンキャンプが開催されており、入学に関する支援は充分に行われている。

学生便覧に相当する「要覧」や「学習必携」などの学習支援のための印刷物は充実している。学力不足の学生および優秀な学生に対しては、教員が個別に指導を行っている。学習上の悩みを持つ学生については、クラスアドバイザーが学生相談室および実習指導室などと連携を取って指導している。校舎は勿論、休息施設、学生寮なども充実し、通学の便宜も図られている。独自の奨学金制度を運営し、個人情報保護の規

程を設け、適正に処理されており、学生支援体制は充分である。クラブ活動や大学祭などは学生が主体的に運営に携わり、大学は積極的に支援している。ただし、個々のクラブ活動などを全学的に統括する学生組織（いわゆる学友会）が作られていないので、その組織化を検討することが望まれる。

進路支援は就職委員会および就職課が担当し、就職最新情報を学生に提供している。2年間で20回近く開催される就職ガイダンスなどの指導により、高い就職決定率を維持している。また、毎年併設四年制大学などに編入実績があり、進学に対する支援も行われている。

現在留学生などはいないが、多様な学生を受け入れる体制は整っている。

以上のように、学生の学習・生活・進路支援および多様な学生の特別支援のための組織的取組みは充分実施されており、高い評価が与えられるべきであると判断した。

#### 評価領域Ⅵ 研究

各教員の研究業績は個々によって異なるが、全体として比較的活発であり、成果をあげている。研究成果は大学の出版物などを通して公開されている。また、科学研究費補助金など外部からの資金調達や教員間の共同研究の実績もあり、充分評価される。

教員個人研究費規程が制定され、研究室や研究用機器・備品も充分整備されている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

当該短期大学設立以来の歴史において、社会的活動はキリスト教精神に基づく使命として重要視され、現在に引き継がれている。特に昭和43年から始まった国立ハンセン病療養所での奉仕活動は、差別や偏見の未だ厳しい時代の中、環境整備工事などのワークキャンプから始まり、現在は在学生のみならず卒業生や他大学生も含む活動となっている。ほかにも、数々のボランティア活動が教員の支援のもと活発に推進されている。

また、公開講座やサマーセミナー、保育者のための絵本講座など地域社会へ向けた多様な試みが継続的に行われ、多くの保育者や地域住民の参加がある。高大連携の連続授業や地域社会との交流・連携に積極的に取組み、地域社会に貢献していることは評価できる。

さらに教員は海外での学会などの研究発表のほか、国際交流の取組みに努力している。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は学校法人全般に、また学長は大学・短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。学校法人の管理運営体制は寄附行為などに基づき適切に機能を果たしている。短期大学は学則などの規程に基づき、教授会や各種委員会を設置して適切に運営されている。事務組織は大学と一体化されているが、規程および必要な施設設



備が整備され、事務処理は規程に基づき適正に行われている。人事管理は就業規則などの諸規程に則って行われており、職員の健康管理、就業環境の改善や勤務時間の遵守などにも適切に配慮されている。また、学校法人と大学・短期大学の職員間の協力的体制の構築や教員と事務職員との連携が図られている。

このように管理運営全般について組織や設備などは充分整備され、業務も適切に遂行されている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

平成7年1月に発生した阪神・淡路大地震で校舎などに甚大な損壊を被り、その復興に多額の費用を要したが、法人全体が一致協力して努力した結果、財務体質は健全に保たれている。さらに、事業計画および予算は、理事会、常務委員会、大学事務局および各部署が適切に関与して決定され、経理規程などに基づき適正に執行されている。公認会計士による監査を期中に2回と期末に受けているが特に問題となる指摘もない。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

学校法人として、平成21年4月に学校法人関西学院との合併が行われる予定である。聖和大学短期大学部は聖和短期大学と名称を変更して、四年制大学と一体化した運営形態から脱却し、独立した短期大学として独自のあり方を切り開くことが期待されている。

当該短期大学は昭和49年度より「Ⅰ. 年度総括」「Ⅱ. 点検・評価」「Ⅲ. 将来の改革・改善に向けた方策」の三点に統一して自己点検・評価を行ってきた。さらに、教育研究水準の向上と社会的使命の達成のために、平成17年に「自己点検・評価委員会規程」を制定し、この度の財団法人短期大学基準協会による第三者評価を得るための準備を行ってきた。加えて、法人の合併に伴う当該短期大学のあり方を再検討するために1. 短期大学将来委員会、2. 将来構想委員会、3. 諸規則・規程整備検討委員会の3つを柱とする組織を構成し、保育者養成に関する総合計画、キリスト教主義に基づく保育者養成、社会的活動の活性化などに関して検討する予定である。